

西尾市  
学生議会

令和4年8月25日 午後2時から午後4時30分まで

西尾市役所 議場

## **総合政策部長／西尾隆治**

会場の皆様にお知らせいたします。8月22日付の報道発表で既に皆さん御承知のことと思えますけれども、8月21日、日曜日に中村市長が新型コロナウイルス感染症に感染しているということが判明いたしました。本日の学生議会開催にあたりまして、市長のほうからも何らかの形でぜひ参加したいという意向もありまして、本日の学生議会はリモートでの参加ということになっておりますのでよろしくお願いいたします。

## **議長／田中希梓**

西尾市学生議会の開催にあたり御案内します。

傍聴される皆様におかれましては、受付でお配りした注意事項をお守りいただき、円滑な進行に御協力をお願いします。また、開会中は報道関係者が写真撮影のために議場内に入室しますので御承知おきください。

なお、議場内は外気を取り入れて温度調整をしています。換気効率を高めるため、開会後は扉を閉めて実施しますので御理解くださるようお願いいたします。

それでは、開会までもうしばらくお待ちください。

## **議長／田中希梓**

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく幡豆中学校の田中希梓です。よろしくお願いいたします。

ただいまから西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

## **市長挨拶**

### **市長／中村 健**

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村 健です。

10人の学生議員の皆さんには、本日、学生議会に参加をしてくれて、本当にありがとうございます。僕自身、すごくこの日を楽しみにしてはいたのですが、新型コロナにかかってしまいました。今は体調は別に悪くないのですが、まだしばらく待機期間ということで、今日はリモートで参加させてもらうことをお許しください。すみません。

そして、学生議員におかれては、今回の議会に参加するにあたって西尾市のことをよく調べて勉強して、そして発表の練習もして今日を迎えていることと思います。本当に努力に対しまして感謝をいたします。ありがとうございます。

今、この場で一つ取り上げたい話題として、さんぼセルって皆さん御存じですか。小学生の子どもたちがランドセルが重たいのでキャスター、車輪をつけて引いていけるようにする道具なのですけれども、最初に僕がこのニュースを見たときに、それを考え出したのが小学生自身だったというところにすごく感動しました。自分たちの身の回りのことに対して何が問題で課題だと感じているかということの意識だとか、それに加えて自分たちでアイデアを出して解決するための形を作っていこうという行動力にすごく感動しました。これからの時代というのは、そうした自分の身の回りのことに対して関心を持ちながら、自分でアイデアを出して行動に移せるという人が活躍できる時代になってくると思

いますので、ぜひ皆さんにもそうした人になってもらいたいと思いますし、今日の学生議会はそのため大きな一歩にも二歩にもなる機会だと思いますので、ぜひとも有効に活用してほしいと思います。

いつもと違う場にいるということで皆さんもきっと緊張とかするかもしれませんがけれども、自分の意見を自信を持って堂々と発表してもらいたいと思いますので、よろしくお願いたします。

## **議長／田中希梓**

これより学生議会の質問を行います。質問通告者は吉良中学校、下城華保議員、東部中学校、磯谷壮佑議員、佐久島しおさい学校、石川果楓議員、平坂中学校、林 ひより議員、一色中学校、織田俊太郎議員、福地中学校、石川紗希議員、寺津中学校、鈴木彩楽議員、鶴城中学校、山本 愛議員、西尾中学校、新家誠一議員、私、幡豆中学校、田中希梓、以上の10名です。質問の順番は、お手元に配付しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。

順に発言を許可します。最初の質問者、吉良中学校、下城華保議員。

### **1 番／吉良中学校 下城華保議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「より魅力的な西尾市にするために」です。

愛知県には特色があり、知名度の高い市が多くあります。例えば岡崎市は有名な城があり、戦国武将隊を使って市をPRしています。しかし、西尾市は近隣の市と比べ、まだまだ知名度が低いように感じます。

その原因として、西尾市民が西尾市の取り組みをあまり知らないという実態があると思います。私も今回調べてみて、佐久島移住サポートなどの取り組みを初めて知りました。自分の住む市のことやそこで行われる取り組みを知ること、西尾市民の西尾市に対する思いも変わり、もっと愛着と誇りが持てるふるさとになると思います。また、その思いが市の活性化につながるのではないのでしょうか。市の取り組みを西尾市民にもっとアピールしていったらどうでしょうか。

もう一つの原因として、ウナギや抹茶以外にもまだまだたくさんある西尾市の歴史や特産品をあまり生かすことができていないように感じます。私の育った吉良町には塩田があり、饗庭塩が特産品です。白浜地区には西尾市塩田体験館饗庭塩の里があり、塩作りの体験ができます。また、塩作りの歴史も学ぶことができます。自分で作った塩を使ってスイーツを作り、それをSNSで発信したり、大手企業とタイアップして饗庭塩を使った商品を開発し、全国にPRしたりするのはどうでしょうか。西尾市の魅力ある場所、物を生かして、より魅力的な西尾市を目指してほしいと思います。

そこで質問です。

広報にしおによる周知以外に、西尾市の取り組みを多くの市民に知ってもらうためにやっていることや工夫していることはありますか。また、今後行う予定はありますか。

## **総合政策部長／西尾隆治**

総合政策部関係分についてお答えいたします。

広報にしお以外の取り組みといたしまして、SNSを使ったウェブ上の情報発信に力を入れております。特に西尾市公式LINEアカウントのお友だち登録者数につきましては、県下1位の約9万7,000人の登録をいただいております。そのほかツイッターやフェイスブック、インスタグラムやYouTube、市ホームページなど様々な手段で情報発信をしております。

しかし、インターネットの環境が整っていない方もお見えになりますし、SNSを使いこなせない方もお見えになります。例えば高齢者の方、目の見えない視覚障害者の方、日本語の分からない外国人の方などでありますが、このような多様な方に情報を届けるためには、それぞれに合った情報発信が必要であると考えております。

そこで、西尾市として工夫しているところがございますが、高齢者の方には町内会を通じて紙ベースでチラシをお配りし、周知をすることもしております。目の不自由な方につきましては、広報にしおの読上げ機能の設置や外国人の方には多言語翻訳システムを導入するなど、相手により伝わる情報発信の方法を考え、取り組んでいるところがございます。

今後の取り組みといたしましては、西尾市の魅力をもっと多くの方に知っていただくため、西尾魅力発信の担い手づくり事業といたしまして、にしおイズムに力を入れてまいりたいと考えております。

この事業は、市民の皆様にご協力いただきまして、皆さんが撮影した西尾の魅力が感じられる写真や動画をSNSへ投稿していただくことで、西尾への愛着と誇りを感じていただくだけでなく、西尾が好きだというファンを広く獲得する目的がございます。今年度は、写真や動画の撮影ポイントを学びながら西尾の魅力を発信する参加型のイベントを企画しておりますので、ぜひ多くの方に御参加いただければと考えております。

## 交流共創部長／内藤貴久

交流共創部関係分についてお答えいたします。

広報にしお以外で積極的に市民の皆様へ行っている周知の手段としては、YouTubeの西尾市観光文化振興課チャンネル「ニシオノオト」があります。これは、市職員が自ら企画、撮影、出演して、西尾市の歴史、観光、お祭り、イベント、グルメなどを紹介するYouTubeチャンネルで、既に100本近くの動画をアップしており、職員自らが出演して、ここまで市のことを紹介することは全国的に見てもまれなようです。素人ながら職員が全力でレポートする姿にたくさんの「いいね！」をいただいております、2,680の方にチャンネル登録をいただいております。

市民の皆さんに西尾市への愛着をより多く持っていただくためには、下城議員のおっしゃるとおり市の取り組みをしっかりと知っていただくこと、そして市もしっかりアピールすることが重要だと思います。

情報発信の方法はとても進化が速く、時代に合った手法で積極的にPRに取り組み、市内外に西尾ファンを増やしていけるような取り組みを進めてまいります。

## 1番／吉良中学校 下城華保議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

西尾市の特産品を活用する取り組みを過去に行ったことはありますか。また、今後行う予定はありますか。

### **交流共創部長／内藤貴久**

交流共創部関係分についてお答えいたします。

西尾市の特産品を活用した過去の取り組みといたしましては、平成26年から平成30年まで続いた高校パティシエによる抹茶スイーツ選手権があります。この選手権は、西尾の抹茶をスイーツとしても親しみ、その魅力を広く世界に発信することを目的に開催しており、平成30年には、優勝チームのコンセプトを生かした抹茶クリームサンド西尾の抹茶入りが東海・近畿・四国エリアのミニストップで発売されていました。

また、抹茶スイーツ選手権の審査委員長をお願いした世界的にも有名なシェ・シバタオーナーパティシエの柴田 武氏により、名古屋の高島屋で開催されましたバレンタインイベントにおいて西尾の抹茶、饗庭塩を組み合わせたスイーツが販売されたこともあります。

また、今後につきましては、今年度実施しています記念日に西尾を贈ろう！という事業を来年度以降も実施していきたいと考えています。この記念日に西尾を贈ろう！は、親子参加イベントとして、豊かな自然からの恵みを受けた西尾の特産品について学び、また特産品を使ったオリジナルプレゼントを作り、子どもたちが日頃の感謝を伝えるイベントであります。

西尾市の特産品を活用する取り組みは今後もいろいろな企画を予定しており、観光のみではなく、文化資源やスポーツとも連携した文化ツーリズムやスポーツツーリズムといった取り組みもできないかと考えております。

### **産業部長／加藤英之**

産業部関係分についてお答えいたします。

下城議員の言われるとおり、ウナギや抹茶は知名度の高い特産品で、ともに愛知県内で1番の生産量であります。これ以外に米や小麦、大豆、カーネーション、バラなども県内有数の生産量を誇っております。

これら地元の農水産物を活用した取り組みとして、ナシやイチゴ、ミニトマトなど地元で生産された新鮮な農水産物の即売会や花の消費拡大として、地元企業を訪問しましてバラやカーネーションを購入してもらう事業に取り組んでおります。

今年度は新規事業として有名雑誌への掲載、SNSを活用して地元農水産物の魅力を発信しまして、西尾市に行ってみたいと思わせる事業展開と訪問されたお客様が農水産物を扱うお店に立ち寄ってくれるよう、ブランド力とPRの強化に取り組んでおります。

### **1番／吉良中学校 下城華保議員**

ありがとうございました。

私は、西尾の抹茶の苦みや、これを使ったスイーツが好きです。もっと多くの人にこ

の味を知ってもらい、愛されるものになってほしいと思います。

今回この議会に参加して、西尾市の多くの取り組みや工夫を知ることができました。各年代に合った様々な方法での情報発信によって、この先さらに西尾市が魅力的な市になってほしいと思います。そして、多くの人に西尾市が魅力あるまちだと知ってもらえればと思います。これから先、私自身ももっと市の取り組みに参加していきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## 議長／田中希梓

吉良中学校、下城華保護議員の質問が終わりました。

次に、2番目の質問者、東部中学校、磯谷壮佑議員。

## 2番／東部中学校 磯谷壮佑議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは、「笑顔溢れる西尾市へ ～ワクワク給食プロジェクト～」です。

皆さんの好きな給食や思い出の給食は何ですか。中学卒業の年になり、給食を食べることができるのも今年が最後だと思うと急に寂しく感じました。毎月配付される献立表には、愛知県産の食材を使ったメニューや西尾市ならではの抹茶を使ったメニューなど、ワクワクするものが多くあります。僕は特に抹茶トーストが好きですが、旧幡豆郡に住んでいる友達は抹茶トーストを知りませんでした。同じ西尾市でも思い出の給食に知らないメニューがあるのは少し残念に思いました。

西尾市のホームページで観光について調べていると、ワクワク給食プロジェクトという取り組みが紹介されていました。ワクワク給食プロジェクトとは、学校以外の場所でも西尾市の給食を食べることができる機会を提供する事業です。現在、市内の飲食店がこのプロジェクトに参加し、人気給食メニューを提供していることが分かりました。参加店舗には、のぼり旗が目印で掲げられているそうなので、見かけたらぜひ寄ってみたいと思いました。

どんなメニューを食べることができるか調べてみると、いかフライのレモン煮が18店舗、ソフト麺が1店舗、抹茶トーストが2店舗、ちくわの2色揚げが1店舗で提供されていました。いかフライのレモン煮は、2021年9月12日に「県民大調査！愛知あたり前でSHOW」という番組の一部の時間で放送されたこともあります。しかし、人気の給食メニューはほかにもあります。友だちや家族、栄養教諭に西尾市で人気の給食メニューを質問したら、わかめごはん、きなこ揚げパン、アーモンドトースト、スイート風春巻き、抹茶ドーナツ、抹茶豆腐ケーキなども上位に上がりました。

また、給食の話をしたら懐かしがっていた祖父母も、抹茶トーストを知らなかった西尾市の友だちも、このワクワク給食プロジェクトを知りませんでした。西尾市在住の方だけでなく、観光客にもこのワクワク給食プロジェクトをもっと知っていただき、西尾市の抹茶を使ったメニューや懐かしい給食の味を楽しんでほしいと思いました。

また、西尾市の特産物を使って作った給食を味わってもらうことは、地産地消を促進し、食料自給率の向上にもつながります。

そこで、インターネットに不慣れな方のためにも、このプロジェクトについてのポス

ターを作成し、多くの人の目に入る駅やショッピングセンター、くるりんバスなどに掲示したり、広報にしおに取り上げたりしてはどうでしょうか。西尾市ならではの給食メニューをもっと多くの人に楽しんでもらい、さらに笑顔溢れる西尾市の実現に向けても、西尾市の観光の一つとしてもこの取り組みを盛り上げ、ワクワク給食プロジェクトに関する情報を広く発信してほしいと思いました。

そこで質問します。

今までに西尾市在住の方を対象に思い出の給食についてアンケートをしたり、ワクワク給食プロジェクトについて、ホームページ以外で情報発信をしたことはありますか。

## 交流共創部長／内藤貴久

ただいま磯谷議員の意見の中に出てきました給食メニューについては、私たちの中学時代には残念ながら一つもなく、私としては唯一食べたことがあるのは、お店で買ったイカフライのレモン煮です。

それぞれの時代で思い出に残る給食はあるかと思いますが、残念ながら思い出給食アンケートを実施したことはありませんが、ワクワク給食プロジェクトにつきましては、ホームページ以外に広報にしおやY o u T u b eの西尾市観光文化振興課チャンネル「ニシオノオト」で情報発信をしています。

また、参加店舗募集と人気の給食メニューを食べることができるお店の情報を掲載したチラシを配布してPRするとともに、のぼり旗を作成して、参加店舗にはのぼり旗を出していただき、PRの一役を担っていただいております。

## 2番／東部中学校 磯谷壮佑議員

ありがとうございました。

思い出の給食アンケートを取っていただけるとうれしいです。また、Y o u T u b eで情報発信をしているとのことですので、友だちにも勧めて、見てみようと思いました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

誰でも人気の給食メニューを気軽に楽しむことができるように、僕たちに身近なショッピングセンターやスーパーマーケット、コンビニなどでの実施は考えていますか。また、これからどのようにこのプロジェクトを進めていく計画がありますか。

## 交流共創部長／内藤貴久

ワクワク給食プロジェクトの提供方法は、単品での提供に限らず、ランチセットやテイクアウトもOKで、飲食店だけでなく、持ち帰り専門店やスーパーマーケットの総菜コーナーでも手にすることができます。コンビニでの提供につきましてはなかなか難しい事情があるようですが、一度相談してみたいと考えております。

今後の課題としては、いかにしてワクワク給食プロジェクトを多くの方たちに知っていただくか、参加店舗を増やすかということだと考えております。

磯谷議員に御提案いただいたポスターの案につきましては、インパクトのあるポスターを作ることで課題対策の一つとして期待できます。メニューの中でもイカフライのレモン煮はいくつかのテレビ番組でも紹介され、人気を博しており、今では西尾市民のソウル

フードと言ってもいいのかもしれませんが。イカフライのレモン煮の食べ比べ周遊キャンペーンやスタンプラリーなども面白いのではと思っております。

また、世代別の給食メニューなど新たなメニューへの取り組みも考えており、給食には共通の話題性があり、結構盛り上がると思っております。

磯谷議員にはほかにも何かいいアイデアがありましたら、遠慮せず提案していただけたらと思います。ぜひよろしく願いいたします。

## **2番／東部中学校 磯谷壮佑議員**

ありがとうございました。

イカフライのレモン煮の食べ比べ周遊キャンペーンやスタンプラリーなどとても面白いし、参加したいと思いました。また、コンビニでの提供がいつか実施されることを期待しています。そして、インパクトのあるポスターを作って掲示することで、少しでも多くの人にこのワクワク給食プロジェクトを知ってもらい、西尾市の観光の一つとしても盛り上げていけるとよいと思いました。

どの世代でも共通の話題になる給食メニューを通して、今後さらに笑顔溢れる西尾市になるように何かいいアイデアがないか、僕も考えていきたいと思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## **議長／田中希梓**

東部中学校、磯谷壮佑議員の質問が終わりました。

次に、3番目の質問者、佐久島しおさい学校、石川果楓議員。

## **3番／佐久島しおさい学校 石川果楓議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「地域の未来を守るために」です。

今、私たちの住むこの西尾市にも南海トラフ地震の危険が迫っています。西尾市の被害想定は震度7と言われ、かなり大きな地震が来ることになっています。

今年の4月、休み時間に教室で友達と話をしているときに、「緊急地震速報が出たから机の下にもぐって」と担任の先生が叫びながら階段を駆け上がってきました。私たちはすぐに教室の机の下にもぐり、その後、指示に従って運動場に避難しました。抜き打ちかと疑うほど現実味がなかったのですが、後から聞くと自宅のある一色の方ではかなり揺れたそうです。幸い佐久島は地盤が固く、液状化にもなりにくい土地なので、何事もなくそのときは笑って済ませられましたが、そのときの自分は地震に対する危機感が軽薄だったように思います。もし揺れが収まった後に津波が襲ってきたら、私たちの命はなくなっていたかもしれません。それからの私は、もっと自分事として地震災害について考えていかなくてはいけないと反省し、その第一歩として、減災に対するまちの取り組みや震災時の自助、共助、公助について考えてみました。

私は、自分が通う佐久島しおさい学校に来ているときに大地震が起きたときのことを考えてみました。学校では毎年、津波に備えて裏山に避難する訓練を行っています。避難経路を確保するために、先生たちが事前に生い茂った草を刈ったり、竹の枝を払ったりし



ます。そうしてできた山道を、私たちは長靴をはき、ライフジャケットを着て、小さい子たちに気を配りながら登っていきます。避難地点まで来る頃にはみんなへとへとです。4月末に訓練をしたとき、これが本当の避難だったら私たちは本当に助かるのかと不安になりました。

佐久島は高齢者の多い島でもあります。整備されていない山道を登っていくことは難しいでしょう。それに、佐久島にはたくさんの観光客も来ます。私たちの学校は津波避難のハザードマップで2次開設所となっています。海拔7メートルある学校は島のちょうど真ん中にあることから、多くの人たちが学校に殺到することが予想されます。

次に、私が住む一色町は海に近いこともあり、海拔が0.5メートル未満のところが多いです。一色中学校が3.2メートルで、私の住む生田地区も0.5メートル未満のところが多いです。そういった理由から、今年の3月に私の家の裏に生田きぼうのタワーという津波避難タワーが完成しました。これは、高齢者など自力での避難が難しい人たちの一時待機所として作られたものだそうです。しかし、介助が必要な高齢者の方たちは、自力でタワーの階段を上ることができないのではないのでしょうか。そうした人を運ぶために、担架が用意されていると聞きましたが、サポートする人がいなくては使えません。

こんなときこそ町内の人たちがお互いに助け合う共助が必要だと思います。また、全員が避難タワーに避難できないとしたら、それが可能となる数のタワーをさらに増築することが公助ではないかと思います。

そこで、質問します。

佐久島の安全対策について、避難生活用の備蓄はある程度用意されていると聞いていますが、津波への対策としてどのような準備がされているのでしょうか。安全な避難経路や場所の確保と併せて教えてください。

### **危機管理局长／鈴木良浩**

佐久島へ到達する津波につきましては、愛知県が平成26年3月に発表しております理論上最大想定では最大津波高が5.6メートルとされております。避難所でありますしおさい学校の東にあります佐久島開発総合センターは標高7.8メートルありますので、佐久島の住民、観光客はそこに避難していただくことになっております。

昨年度、住民や観光客が島内で避難所にスムーズに向かえるように、島内の5か所に避難誘導看板を設置したところでございます。

### **3番／佐久島しおさい学校 石川果楓議員**

ありがとうございました。

御答弁いただきましたように、理論上、佐久島の指定された避難所へ避難すれば安全だということが分かりました。しかし、東日本大震災では想定を超える津波が発生しており、想定を超える津波が西尾市にも来るのではないかと不安に思っています。

そこで、最大想定がどのように決められているのか、また最大想定以上の津波が来た場合、西尾市ではどのような対策をとられるのか、お考えをお聞かせください。

### **危機管理局长／鈴木良浩**

先ほど答弁させていただきましたとおり、理論上最大想定での最大の津波高が5.6メートルというのは、現時点で起こり得る津波の最大の高さになります。これは、さきの東日本大震災を受けまして、1000年に一度、あるいはそれよりももっと発生頻度は低いのですが、それでも発生すれば甚大な被害をもたらす地震としてあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震、津波を想定したものとなっております。

西尾市は、津波避難施設などの整備をこの理論上最大想定の高さを基に行っております。

### **3番／佐久島しおさい学校 石川果楓議員**

ありがとうございました。

理論上最大想定の高さを基に整備されていることは分かりました。しかし、それでも最悪の事態を想定した見直しを今後とも進めていってください。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

避難タワーについて、全員が避難タワーに避難できないとしたら、それが可能となる数のタワーを今の計画以上にさらに増築することが公助ではないかと思えます。その点について、どう考えられていますか。

### **危機管理局長／鈴木良浩**

津波避難タワーにつきましては、西尾市津波避難計画に基づいて整備を進めております。健全者につきましては津波浸水想定区域外へ避難が原則となっており、要配慮者、いわゆる高齢者など自力での避難が難しい人たちなどにつきましては、支援者とともに津波避難タワーなどの津波一時待機所に避難することになっております。

津波避難タワーは、令和8年度までに全部で10基の避難タワーを計画しております。これは、要配慮者が移動できる距離を1キロメートルと想定しまして、津波に耐えることができる高い建物が不足している地域に建設していくものでございます。西尾市では、全員が津波避難タワーに避難するのではなく、健全者、健康な方で体が自由に動く方、こういう方は区域外への避難をお願いしておりますので、御理解いただきたいと考えております。

### **3番／佐久島しおさい学校 石川果楓議員**

今回、私が地域の未来を守るためというテーマにしたのは、災害に対して自分自身の力だけではできることに限界があると思ったことがきっかけでした。この場にいる皆さんや市民の皆さんが自助、共助、公助の視点を持ってともに考え、災害に備えていくことが大切だと今日の質問を通して改めて考えました。

これからも私自身が中学生の視点から何ができるのかを考えて行動していきたいです。今後ともよろしく申し上げます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／田中希梓**

佐久島しおさい学校、石川果楓議員の質問が終わりました。

次に、4番目の質問者、平坂中学校、林ひより議員。

#### **4番／平坂中学校 林ひより議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「場所の有効活用とリメイク」です。

私は、この西尾市にあるヴェルサウォークによく行きますが、多くの人が訪れて、楽しめる場所が西尾市には少ないと感じています。西尾駅付近の本町や下町にはたくさんのお店がそろっていて、車通りも多く、一番栄えている場所だと思います。しかし、多くの人を惹きつけるような魅力あるスポットや小さい子どもからお年寄りまで集まって楽しめるような施設が充実しているとはまだまだ思えません。

また、まちなかから少し足を延ばせば、私が住んでいる平坂地区にある古いパチンコ屋のように、今では使っていない建物がそのままの状態にいたり、活用されていない広い空き地があったりと、もったいないと感じてしまう場所がたくさんあると思います。

私は、そんな場所を有効活用すべきだと思います。例えばそのような場所を映画館にしたり、小さい子どもからお年寄り、若者やカップルでも気軽に遊びに来ることができ、楽しめる総合公園のような施設に作り変えたりすることです。

また、三河線の跡地や高架を活用し、名古屋にあるガイドウェイバスのように蒲郡方面へとつなぐ専用バスルートを作れば、新たな観光スポットになるだけでなく、東三河の人たちも西尾市へ足を運ぶきっかけになるのではないかと思います。

一方で、私は全てを作り変えてはいけないと思います。昔ながらの西尾の風景や城下町としての歴史ある風景を壊さないことも大切です。このバランスが取れてこそ西尾市の魅力は増していくと私は思います。

今の西尾市にどんな建物があって、どんなところがよいのかを見直し、新しい西尾市と変わらない西尾市を作るべきだと思います。特に西尾駅周辺の開発は、将来を見据えた取り組みが必要だと思います。西尾の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくりをするため、以下の2つの質問をします。

1つ目です。西尾駅周辺の住民を対象として、必要な施設や生活環境についてアンケートで聞いたことはありますか。

#### **都市整備部長／吉田修二**

市民を対象としたアンケートにつきましては、今後の西尾市が目指すべき姿や方向性などを示す西尾市総合計画や10年後のまちの姿を描く都市計画マスタープランなどの現在策定中のまちづくりの基礎となる計画に必要なアンケートとして、令和3年度に実施しております。

このアンケート結果のうち、西尾中学校区にお住まいの市民の方々の結果を基にお答えさせていただきます。

西尾駅周辺地区に必要とされている施設としては、公園や広場、小売店舗、医療施設、娯楽施設が主なものになっています。また、重要度が高いが満足度が低い項目に対するアンケート結果につきましては、鉄道の利用のしやすさ、病院や福祉施設の充実、生活道路の整備、騒音や悪臭などの公害対策など生活環境に関係する項目が多く挙げられています。

#### 4番／平坂中学校 林ひより議員

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

ワクワクする西尾市になっていくために、西尾駅周辺で今後どのような土地利用を計画していますか。

#### 都市整備部長／吉田修二

都市整備部関係分についてお答えします。

西尾駅周辺の主な土地利用につきましては、大規模な店舗や事務所、マンションなどが建てやすく、事業者が進出しやすい商業系の土地利用と、住宅の建設が主な目的で大規模な店舗などを建てることのできない住居系の土地利用で構成されています。

このような状況の中で住居系の土地利用が多く位置づけられている駅の東側、ヴェルサウォーク側になりますが、その周辺において事業者の進出による駅周辺のにぎわいが生まれるように、現在策定している都市計画マスタープランの中で商業系土地利用の位置づけを拡大することを検討しているところです。

#### 産業部長／加藤英之

産業部関係分についてお答えします。

西尾市では、西尾駅周辺のまちなかのにぎわいを創出するため、中心市街地活性化ビジョンを令和4年度と5年度の2か年にかけて作り上げ、土地の利用方法などを計画の中で検討しております。

市民や事業の皆さんとワクワクするまちなか、これを作るため、今年度から西尾駅周辺で何かやりたい方に、駅構内のおいでつきやみどり川沿い、西尾駅東西の広場などの公共空間を無料で開放しまして、マルシェ、キッチンカー出店など有効活用してもらうため、まちなかにぎわいパートナー事業を実施しておりますので、中学生の皆さんも何かきっかけなどがありましたら商工振興課まで御相談ください。

また、今年度から空き店舗対策にも力を入れておりまして、まちなかで新しくお店を始めたい方に利用できそうな空き店舗を紹介しまして改装費用などを補助することで、利用されていない建物や土地を活用して、まちなかにぎわいを増やす取り組みを行っております。

#### 4番／平坂中学校 林ひより議員

ありがとうございました。

にぎわいあるまちなかにしていく計画があることがよく分かりました。

一方で私は、昔ながらの西尾の風景や城下町としての歴史ある風景を壊さないことも大切と思っています。

そこで再質問します。

歴史的な町並みを保存するために作成している計画はありますか。また、その内容はどのようなものですか。

## 交流共創部長／内藤貴久

現在市では、歴まちといわれる歴史的風致維持向上計画というものを策定しているところであります。この計画は、歴史的な町並みと一体となって、風情、情緒、たたずまいのある良好な市街地の景観を維持向上させることを目的としています。

具体的内容はまだ検討中ではありますが、城下町エリアを中心に計画の対象地域と考えており、町並みを保全活用して、後世に継承していけるように考えております。

## 4番／平坂中学校 林ひより議員

ありがとうございました。

駅周辺の開発や計画が進んでいることがよく分かり、これからどのように西尾が変わっていくのか、その中で西尾らしい町並みをどう残していくのか、楽しみにになりました。また、中学生でも西尾のまちづくりに貢献できるような活動を計画していると分かり、ワクワクしました。

私たちの校区である平坂地区は、住んでいる人や子どもが多く、利用できる場所もまだまだたくさんあります。ぜひ盛り上げていけるような活動をお願いしたいです。

このように西尾の中心部から少し離れているところでも土地を利用し、開発を進めていけば、これから西尾に住んでいる人はもちろん、訪れた人も西尾って楽しい、西尾っていいまちだな、来てよかった、住んでよかったと思う人は増えていくと思いました。

私もこれからのワクワクする西尾のまちづくりのために積極的に開発に携わっていきたいと思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## 議長／田中希梓

平坂中学校、林ひより議員の質問が終わりました。

次に、5番目の質問者、一色中学校、織田俊太郎議員。

## 5番／一色中学校 織田俊太郎議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは、「安心安全で未来につながる一色町」です。

僕は、この学生議会に向けて学年で問題点を話し合い、みんなの意見をまとめてここに来ました。西尾市、特に一色町で、課題と思っていることは3つあります。

1つ目は、町の環境についてです。一色町は、防犯灯が少なく、塾の帰りなどに通るとき非常に暗く、怖いと感じる生徒が多くいます。田んぼや畑があるところだけではなく、住宅街でも非常に少ないです。暗い町並みでは、不審者がとても怖いです。また、道路は、ひびがあり、凸凹している場所が多く、危険を感じます。一色中学校の生徒は、車道の凹凸によってハンドルが切れず、タイヤをとられて転倒してしまうということが少なくありません。車道の凹凸に水がたまって水しぶきが飛んできたりするということもあります。大きな事故につながりかねません。

2つ目は、人の集まる場所です。小さい子から高校生や大人まで一色町内で集まれる

場所は、現在主に一色学びの館だけです。そのため、ほとんどの人がそこに集中してしまい、落ち着いて学習できないことが問題になっています。

学びの館に隣接する広場では、人が多く集まってしまうせいか、ボール遊びも禁止になってしまい、町内にボールを使って遊べる公園はほとんどなく、困っているという意見もありました。学びの館の位置は、東部小校区や西部小校区からは遠く、仲間と集まる屋外の場所が非常に少ないです。もっと至る所に目的にあった集まれる場所がほしいです。

3つ目は、雇用問題です。僕たちが大人になって一色町で働ける場所があるように感じられないのです。いざ就職しようとしたときに本当に働けるような場所が少ない気がします。ウナギを含めた飲食関係以外に雇用がある企業が本当に少ない気がします。もっと一色に企業を誘致すれば活気のあるまちになるだろうし、地元にとどまって生活していこうと考える生徒が増えると思います。地元就職口がないということは、きっと一色町から若者が離れてしまい、さらにまちが衰退する可能性があります。

そこで質問でします。

防犯灯の設置や道路の整備はどのような手続をすれば改善されますか。

### **危機管理局长／鈴木良浩**

まず防犯灯の設置について、危機管理局関係分についてお答えいたします

各町内会で暗く、防犯上危険だと思われる箇所に町内会の皆さんの考え、総意に基づいた上で防犯灯は設置されて、管理されております。市は、その設置する際の費用の一部を補助しているのが現状であります。

例えば、織田議員が防犯灯設置を御希望される際、その御自身の町内会の場合は、同居してみえるお父さん、お母さん、家族の方に相談されまして、その家族の方から織田議員のお住いの町内会長にまずは要望を出していただきたいと思っております。塾に通われるときに違う町内を通られると思っております。そういった場合は、御自身以外の町内会という形になりますので、そういったときの御要望に関しては市役所の危機管理課まで御相談いただければと思っております。

また、昨年度、今までは蛍光灯の防犯灯でしたけれども、市と各町内会が協力いたしまして防犯灯の一斉LED化を行った経緯がございます。光源の届く範囲が以前の蛍光灯より格段に広範囲になって、LEDになったことによって明るくなって、安全性が高くなっております。

以上です。

### **建設部長／岸本正二**

建設部関係分についてお答えいたします。

道路の整備は、地元町内会からどこをどのように直してほしいかが書かれた工事要望書を提出していただきまして、要望内容の優先度や緊急性の高いものから整備を行っております。また、小学校の通学路などでは、5年に1回程度行われている通学路の交通安全点検によりまして、事故防止などの対策が必要と思われる箇所を改善しています。

なお、道路の穴や溝蓋の蓋が割れているなどの事故につながるような危険なものについては、電話などで通報していただければすぐに直すようにしています。

#### 5番／一色中学校 織田俊太郎議員

ありがとうございました。

市民からの要望や危険がある場所に設置するなど必要な場所を優先しているので、僕たち市民が積極的に要望を出すことが必要だと思いました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

一色町内にボールを使った遊びなど、子どもたちがのびのび遊べて、子育て世代が使いやすい公園を作る計画はありますか。

#### 都市整備部長／吉田修二

織田議員の御質問にあります子どもたちがのびのび遊べて、子育て世代が使いやすい公園を作ることは、公園の少ない西尾市において大きな課題の一つになっています。

しかしながら、このような公園を整備するには広くまとまった面積の土地が必要になり、場所の選定や整備費用を含めて公園用地の確保が非常に難しいため、なかなか進んでいないのが現状です。

一色地区においても、今のところこのような公園を整備する計画はありませんが、現在は、公共施設の跡地を利用した公園整備も進めていますので、整備が可能な土地がありましたら積極的に進めてまいりたいと考えております。

なお、一色地区のほとんどの公園でボール遊びを禁止にしているわけではありませんが、自分たち以外に公園を利用している人が近くにいる場合は、ボール遊びなどの行為はほかの利用者の迷惑になることもあるため、ボール遊びを控えてもらうようお願いしていますので、御協力をお願いします。

#### 5番／一色中学校 織田俊太郎議員

ありがとうございました。

公園を作るだけでも様々な条件があるということを知り、そのような施設が設置されるまでは今あるところを最大限に活用することが大切だと分かりました。

続きまして、3つ目の質問に移ります。

市の方針として、一色町の雇用問題の対策は具体的にどのように考えていますか。

#### 産業部長／加藤英之

若い人たちが将来地元で働いて、ここで生活したいと思えるまちづくりが重要であると思います。しかしながら、雇用を生む企業を誘致するためには、周辺の道路整備や土地確保のための予算等、様々な法律などの条件を満たす必要があります。

こうした土地を企業に紹介して、西尾市への誘致を行っていますので、働き先として一色地区はもちろん、市内全域にある企業にも関心を持っていただきたいと思います。

また、就職支援事業として、地元企業と近隣高等学校との就職に関する情報交換会や大学生を対象とした会社説明会を開催しております。

#### 5番／一色中学校 織田俊太郎議員

ありがとうございました。

再質問します。一色町への企業進出をどのように考えていますか。

### **産業部長／加藤英之**

進出する企業の候補地としての主なニーズとしまして、工業は災害リスクの少ない場所、物流業は交通利便性の高い場所、商業・サービス業は人が集まり、周りに競合店舗がない場所を希望してまいります。

一色町は土地の大部分が、先ほど危機管理局長が申し上げたとおり、津波や洪水の浸水が想定される区域となっております。誘致には多くの制限がありますが、ウナギやえびせんべいなど沿岸部を有する一色町で地域に根づく地場の産業があります。一色町ならではの企業ニーズや経済の効率性を生かした適材適所の企業誘致を進めていきます。

また、現在のデジタル技術は急成長を遂げており、これまでにない産業が都市部以外にも既に生まれてきております。ぜひ若い皆様が一色町で新しい産業を目指し、雇用を創出する活躍を期待しております。

### **5番／一色中学校 織田俊太郎議員**

ありがとうございました。

様々な法律などの条件があり、簡単ではなく、それらがかなうまでの時間を僕たちがどう過ごし、まちの将来について真剣に考えていくことが、より一色町をよくすることにつながると思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／田中希梓**

一色中学校、織田俊太郎議員の質問が終わりました。

ここでしばらくの間休憩します。午後3時15分から再開します。

休憩 午後3時05分

再開 午後3時15分

### **議長／磯谷壮佑**

皆さん、こんにちは。後半の議長職を務めさせていただく東部中学校の磯谷壮佑です。よろしく申し上げます。

それでは、休憩前に引き続き会議を開き、質問を続けます。6番目の質問者、福地中学校、石川紗希議員。

### **6番／福地中学校 石川紗希議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「地域と学校のつながりづくり」です。

私には生徒会長として成し遂げたい公約があります。それは、タブレット端末を活用して、私たち生徒の頑張る様子を紹介したり、全校生徒が笑顔になるような動画を発信する取り組みです。昨年度から学校現場にもタブレット端末が導入されたことで、授業だけでなく、生徒会活動も新しい発想で取り組まなければならないと思っています。



一方で、地域の情報を得るときに効果的だと感じるのは広報にしおや回覧板です。私の家族は広報にしおや回覧板の地域情報をよく読みます。自分の好みの内容だけでなく、それまで興味、関心のなかったことも掲載されているので、自然と情報を得ることができると感じています。

私たち市民が自主的に情報を集めることは大切ですが、生活に必要な情報や、潤いをもたらす情報、災害等の生命を守るための情報は、市から市民へと確実に伝わるのが大切だと思います。西尾市に住むどの世代、どの立場の方にも確実に情報が行き渡り、自然と読まれる広報にしおの発行や回覧板の取り組みは、今の時代だからこそ大切にしたい素敵な取り組みだと思います。

しかし、その回覧板や広報誌の取り組みが、年々減少傾向にあることを社会科の授業で聞きました。西尾市はどのようなだろうと思い、調べてみると、広報にしおの発行は、令和2年度より、それまでの月2回発行から1回に縮小されていることが分かりました。市のホームページには広報にしおのデジタル版が掲載されていますが、直接自宅に届き、自然と読むことができるメリットは大きいと感じます。

私はこのことについて調べていくうちに、広報誌や回覧板の取り組みは、地域のつながりを保障する役割を担っていると考えるようになりました。広報誌や回覧板が確実に行き渡るということは、そこに生活する人がいる証拠です。それが確認できることも価値の一つだと思います。

また、多くの人に自然と読んでもらえる方法としてもすばらしいと思います。私たちも生徒会活動をより多くの人に知ってもらおうと思い、回覧板に加えて、広報にしおにも生徒会活動を掲載することは可能かと市役所の方に尋ねてみました。しかし、他校からも要望がありますが、掲載は難しいという回答でした。さらに、掲載できる情報量が限られているという御説明もいただきました。

私は、広報にしおの発行回数を2回に戻すことができたらいいなと思います。例えば1回あたりの内容は減っても、2回に増えれば内容も増えると思います。そして、よりタイムリーな情報を市民に提供することができます。そして、学校の情報も掲載することができれば、地域と学校のつながりはもっと強くなると思います。

地域と学校が地域の幸せを目標に、コミュニティデザインをする。そのために、今まで以上に地域とつながっていくことがこれから必要だと思います。コミュニティデザインという言葉は小学校6年生の国語で学びましたが、地域の幸せのために外せないキーワードだと思います。

広報にしおの発行回数が減った理由の一つとして、町内会長の方々の大きな負担があることが分かりました。西尾市には町内会の数が401あるそうです。月2回の発行により、回覧板での配付等が負担だという声が多かったことを推測しました。だからこそ今、考えているのは、私たち中学生がお知らせを直接各家庭のポストに入れる取り組みです。

現在、私たちは大規模な資源回収の際に回覧板を用いて情報を発信しています。しかし、回覧板だけでは、どうしても見落とされたり、印象に残らなかったりするという課題があります。そこで、自作の案内チラシを直接各家庭のポストに入れたいと考えています。私たちの先輩が、数年前まで地域の家を一軒一軒訪問して資源を回収していた経験を活用したいです。

今まで培ってきた経験を基にして、発想を転換することで、町内会長さんの負担を軽減しながら、市民との情報を行き渡らせる方法が見つかるのではないのでしょうか。

そこで、質問します。

今後、市として町内会の負担を軽減するような取り組みは何か考えていますか。

### **市民部長／小林明子**

市民部関係分についてお答えいたします。

現在、市では各町内会に対し、町内会長事務委託料をお支払いして、広報にしおの配付をはじめとする市政に関する情報周知と地域振興活動事務委託料をお支払して、地域の健全な発展のため、美化、防犯などの地域活動を行っていただいております。

これまでの負担軽減の実績として、代表町内会長会議の開催回数の縮減、代表町内会長の中の会長の廃止をまいりました。また、町内会長を通じて配付をお願いしております広報にしお以外の配付物もなるべく減らすよう、市役所内の各部署に呼びかけております。

今後はさらに負担を減らすため、学校や保育園の行事への参加の見直し、各課に対して町内会への負担を軽減するよう呼びかけてまいります。

### **総合政策部長／西尾隆治**

総合政策部関係分についてお答えいたします。

まず初めに、広報にしおに関心を持っていただきまして誠にありがとうございます。担当として非常にうれしく思います。ありがとうございます。

質問の答弁でございますが、町内会への負担軽減を図る取り組みといたしまして、先ほどお話がありましたように、令和2年4月号から広報にしおの紙面のリニューアルに合わせまして発行回数を月2回から月1回に減らしておりますけれども、さらに今後負担軽減を図るということになると、ポスティングによる全戸配付ということが考えられます。ただ、このポスティングによる全戸配付は、西尾市としましてもこれまでも検討してきた取り組みでございますが、1回の配付で約450万円、年間で言いますと5,400万円の費用がかかることとなります。大変厳しい財政状況の中で様々な多様化する市民の要望にお応えしていくためには、限られた財源をうまく有効に使っていく必要があると考えております。

そのため、月1回発行する広報にしおにつきましては、町内会の御協力を得ながら市民の皆様のお手元にお届けする現状の取り組みが現時点では適切だと考えております。

### **6番／福地中学校 石川紗希議員**

ありがとうございました。

市が町内会長の役割を大切に捉え、負担を軽減する様々な取り組みをされていることが分かりました。また、厳しい財政状況を踏まえ、現状の取り組みをされていることもよく分かりました。

その上で私は、白黒刷りにしても、ページ数を減らしても、市民への情報提供の機会が増えるとよいと考えています。私自身、この問題についてさらに考えていきたいです。

続けて、2つ目の質問に移ります。

西尾市は、地域と学校のつながりづくりについてどのような姿を最終目標としているのでしょうか。

### **教育部長／齋藤武雄**

西尾市ではこれまで、各学校において学校だよりや行事の案内を地域に配布したり、保護者や地域に学校の様子を見ていただく機会を設けたりしてきました。また、保護者や地域で子どもたちを育て、見守っていただくことを呼びかけるため、小学生の登下校見守り活動のさらなる推進を目指し、教育委員会から各小学校へ呼びかけの礼文を発出するなど、地域と学校のつながりを大切にしてきました。

地域と学校のつながりにつきましても、地域の在り方も学校の在り方も時代とともに変遷してきました。これからも変わっていくと考えられるため、地域と学校のつながりの形を特定することは容易ではございません。

しかしながら、学校は、子どもたちが地域との関わりの中で学ぶことによって、社会性や郷土愛が生まれることを願っています。一方、地域は、学校との連携や交流によって地域の安全性が高まるとともに、生き生きとした暮らしになることを期待しています。学校も地域の一員であり、お互いが支え合いながら豊かな教育と幸せな生活が築かれていくようなつながりが目標であると考えております。

### **6番／福地中学校 石川紗希議員**

ありがとうございました。

地域と学校、双方の願いがかなえられることが最終目標だという答弁を聞いて、お互いの願いを理解したり、市に伝えたりすることが大切だと考えました。

私は、地域の情報や願いがどの世代でも確実に受け取れ、私たちの願いも届きやすい西尾市であってほしいと願っています。私自身、今後も積極的に地域の情報を求め発信し、地域の幸せのために行動したいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### **議長／磯谷壮佑**

福地中学校、石川紗希議員の質問が終わりました。

次に、7番目の質問者、寺津中学校、鈴木彩楽議員。

### **7番／寺津中学校 鈴木彩楽議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「寺津を第2の小京都に」です。

私が通っている寺津中学校の周辺には、自然と歴史が作り上げた素晴らしい文化が広がっています。そのいくつかを紹介したいと思います。

まず、初めに枯木宮貝塚を紹介します。

こちらを御覧ください。寺津中学校は枯木宮貝塚の上に建っていて、体育館の周辺や運動場の隅には今でも白い貝殻が出てきます。また、発掘調査の結果、職員室、校長室の

地下からは人骨が多く出土されたという話もあります。今でも寺津中学校周辺に家を作るときには発掘調査が行われるなど、縄文時代を知る上でとても重要な史跡があります。

また、寺津中学校の校章も地域の歴史と深くかかわっています。寺津中学校の校章には臥した蝶がデザインされており、これは戦国時代に寺津城を築城した大河内氏の家紋である丸にアゲハ蝶からデザインされたものです。寺津中学校のほかにも、保育園は青虫、小学校は蝶のさなぎといったように大河内氏とのつながりも深いです。

大河内氏とつながりが深い建物としては寺津八幡社があります。平安末期から鎌倉時代にかけて、寺津大河内氏の祖である顕綱が建てたと伝えられています。社殿を改築したときに徳川家康も一緒にまつられ、その後、徳川家光からも朱印状を受けたなど、由緒正しい神社です。

ほかにも金剛院、常福寺の大仏、常楽院閻魔堂、浄妙寺など有名な史跡や、寺津街道にある門前町として、たくさんのおいしい食べ物を売っているお店もあります。

そこで提案があります。寺津を第2の小京都として売り込んでみてはどうでしょうか。そのために、小中学校で観光地めぐりのマップを作ったり、史跡めぐりのバスを増設したりしてはどうでしょうか。まちの魅力を伝えるためのマップや、その場所をめぐることができるバスが増設されれば、自然と観光客も増えてくると思います。そうすれば地元のお店街も潤いますし、生活している人たちもバスに乗る機会が増え、外に出やすくなると思います。

そこで質問します。

寺津は、歴史文化の価値と魅力の詰まった地域です。今後、観光地として売り出す考えはありますか。

## 交流共創部長／内藤貴久

西尾市には京都所司代を勤めた板倉氏の菩提寺、長圓寺があります。貝吹町の万灯山で行われますかぎ万灯は、京都の五山の送り火と同様の旧盆の行事であります。抹茶の原料となるてん茶の生産量は全国トップクラスです。そして、市内を流れるみどり川には二条橋、三条橋、四条橋などの名前が付けられています。

これらのことは全国京都会議への加盟条件を満たしており、西尾市は平成7年度に全国京都会議への加盟が認められ、三河の小京都・西尾としてPRしています。

寺津地区は、知恵伊豆と呼ばれた老中・松平伊豆守信綱の大河内松平家の出身であり、常福寺の大仏や常楽院の閻魔様など初めて見たときの感動は忘れられず、歴史的価値のある地区であることは間違いない、すばらしい地域であると思います。

そして、寺津地区には京都の町並みと同じようにお寺がたくさんあります。しかしながら、鈴木議員のおっしゃる寺津を第2の小京都にということにつきましては、西尾市を小京都としてPRしているため正直難しいと感じていますが、西尾市全体を小京都としてPRする際に寺津の小京都らしさをPRできればと思っております。

また、寺津地区は昨年度初めて行いました、にしおフルマラソンコースの一部にもなっています。ランナーは走ったコースを意外と覚えていてくれるもので、そうしたイベントを通して寺津を知っていただく機会にもしていきたいと考えています。

そして、寺津地区の皆さんから今まで以上に寺津のよさを発信していただくとともに、

鈴木議員にも寺津の新たな魅力の発見や情報発信に努めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### **7番／寺津中学校 鈴木彩楽議員**

ありがとうございました。

続いて、2つ目の質問に移ります。

観光地として売り出すためには、市内外の人にこの地域に来てほしいと思います。そのためには公共交通機関の充実が必要だと思います。西尾市には、市民の足となる六万石くるりんバスがありますが、寺津の史跡などを巡るためにルートを見直したり、バスの本数を増やすことはできないでしょうか。

#### **市民部長／小林明子**

令和2年4月に地域の皆さんやアンケートの意見を基に六万石くるりんバスを3路線から8路線に拡大いたしました。

寺津地区では寺津矢田線を新設し、名鉄東部交通バスが廃止となったエリアをカバーするとともに、より細かく地域内をまわるルートとし、買い物や通院などのほか、主な観光施設へのアクセスもできるように運行しております。

御提案の史跡などには、いずれも300メートル以内の徒歩圏内にバス停があります。また、寺津矢田線はほかの路線に比べて本数を多く走らせており、日中の観光としても十分に御利用いただけるものと思っております。観光客のみをターゲットに絞った移動手段としては、例えば定額制の周遊タクシーを設定し、寺津地区内の観光施設をくまなく巡ることができるようにすることも考えられます。

今後、利用者のニーズが高まれば、費用対効果の観点も十分に考慮しながら、観光協会やタクシー事業者に働きかけていきたいと考えております。

#### **7番／寺津中学校 鈴木彩楽議員**

ありがとうございました。

改めて西尾市は自然と歴史の魅力の詰まった地域なのだと感じました。交流協創部長さんがおっしゃったように、西尾市はすばらしい地域であります。西尾市のよさをさらに多くの人たちに知ってもらうために、三河の小京都・西尾のPRにぜひとも寺津を取り入れていただきたいです。

また、市民部長さんのおっしゃった観光客のみをターゲットに絞ったタクシーを設定するということにつきましては、寺津をゆっくりと巡れるため、とてもすばらしい案だと感じました。こちらもぜひとも取り入れていただき、西尾市がさらに発展していくことを願っております。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

#### **議長／磯谷壮佑**

寺津中学校、鈴木彩楽議員の質問が終わりました。

次に、8番目の質問者、幡豆中学校、田中希梓議員。

## 8番／幡豆中学校 田中希梓議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「安全で快適に過ごせる街」です。

私は、自分が住んでいる幡豆地区は安全で誰もが快適に過ごせる場所だと思っていました。しかし、よく考えて周りを見てみると、いくつか問題点を見つけました。

私たちの中学校では、ほとんどの生徒が自転車で通学しています。通学路の大通りは一本道で、ほとんどの生徒が同じ道で通学しますが、その途中にはいくつもの坂があり、毎年自転車の事故が絶えません。特に、通学路内に竹や木が高く伸びている場所があり、その落ち葉で滑って自転車が転倒することが多いです。小学生も通学しているため、通学路がきれいになったり、広くなったりしてほしいと思います。さらに、自転車専用レーンがあると交通事故が減ると思います。いかがでしょうか。

次に、防災についてです。

最近、県外では地震が頻繁に起こっています。また、県内では南海トラフ地震が近いうちに起こると言われています。私は中学校の総合的な学習の時間で防災について学びました。そして、この機会に日頃から家庭内で見直しておくものはないか見直すことができました。しかし、家庭内だけで見直しても、避難場所に避難した後、どうなるか分かりません。思っている以上に不安が募り、パニックになるかもしれません。

私は、津波が来たときに防ぐ防潮堤を見たことがあります。しかし、三ヶ根山などの山や崖もあるため、土砂崩れが発生する可能性もあります。幡豆地区には、木の生えていない崖になっている箇所があります。土砂崩れを防ぐために崖に網をかけておく、木を植えて土砂を防ぐなどの対策も必要だと思います。

そこで質問します。

自転車に関わる交通事故に対して、どのような対策や呼びかけをされているのか教えてください。また、今後、通学路の整備や歩道の増幅などの予定はありますか。

## 危機管理局長／鈴木良浩

危機管理局関係分についてお答えいたします。

自転車に関わる交通事故に対しての対策や呼びかけにつきましては、田中議員御承知のとおり、小中学校で行われる交通安全教室におきまして、西尾市交通安全協議会交通指導員がそれぞれの学校の状況に応じて自転車の乗り方等を指導しております。

また、西尾警察署や西尾交通安全協会等と協力いたしまして、市内各所のお店等で反射材などの啓発品やチラシを配布する交通安全啓発活動を実施しております。

市のホームページにも自転車の交通安全のページを掲載しておりますので、よろしくお願いたします。

## 建設部長／岸本正二

建設部関係分についてお答えいたします。

通学路の整備や歩道の増幅については、現在市内の2つの路線で歩道の幅を広げる工事を行っており、そのほかにも地元町内会から提出される工事要望書などによって道路の

整備を行うとともに、町内会とも協力しながら木や草の伐採を行うなど、歩行者が安全に通行できるよう努めております。

今後も通学路の安全確保に向けた継続的な取り組みとなる交通安全プログラムや工事要望などにより、対策が必要と考えられる箇所から計画を立てて整備をしていきます。また、最近では自転車事故が増えてきていますので、路線を選定するなどして自転車が安全に通行できる空間を整備するための自転車ネットワーク計画を作ることも考えております。

## **8番／幡豆中学校 田中希梓議員**

ありがとうございました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

大地震に伴って津波が発生し、避難場所に避難した際、避難所ではどのような対応を計画しているのか教えてください。また、土砂災害を防ぐためにどのような対策をしていますか。

## **危機管理局长／鈴木良浩**

危機管理局関係分についてお答えいたします。

災害の規模などにより避難者数は大きく変わりますが、各避難所では、昨年新型コロナウイルス感染症対策といたしまして屋内用テント、これは2人用、2人入れるのですけれども、その中に置いてもいいように折り畳みベッド、エアーマット等を購入して、各避難所に配備を進めたところでございます。

なお、大地震等の避難者数ですが、西尾市では人口が17万人ですが、そのうちの7万人が避難者となると予想されておりますので、市では7万人が3日間過ごせるだけの水や食料の配備も同時に進めているところでございます。

避難所におきましては、各避難所に避難所運営マニュアルという説明書が配備してありますが、これに従って避難所配置職員、これは市の職員が一番最初に避難所を開けて、受付等を整備する役目ですが、その後に各町内会、自主防災会、避難された市民の方で協力して避難所は運営していただきたいと思っております。

また、避難所に避難された方々には少しでも安心していただくために、最新の情報提供は、我々災害対策本部が努めてまいりたいと思っております。

以上です。

## **建設部長／岸本正二**

建設部関係分についてお答えいたします。

土砂災害を防ぐための対策としましては、多くの人たちが生活している建物や高齢者などの自力で避難が難しい人たちの施設に影響がある区域を優先して、愛知県により、崖崩れの危険のある斜面の補強や崩れてくる土を安全に受けとめるための施設を作っています。

今後も対策を進めていきますが、全ての危険箇所を整備するにはかなりの時間もかかるため、災害が発生する前に避難を行うなど、命を守る行動をとることを目的とした土砂災害ハザードマップを作成し、各家庭に配布しています。このマップには、被害を受ける

おそれのある区域や避難所なども表示してありますので、いざというときに慌てないようにするため、日頃から災害への備えや災害時の行動などについて家族と話し合っておくことの大切さもお知らせしております。

#### **8 番／幡豆中学校 田中希梓議員**

ありがとうございました。

災害が起こった際の食料や用具の配備、マニュアルの準備など西尾市が災害を予想して対策されていることが分かり、安心しました。

また、日頃から自分自身の身を守り、安全に過ごすためにはどうすればよいか、地域の方と一緒に考えていきたいと思えます。そして、安全で明るい未来を作り上げられるよう、今、私にできることをやっていきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

#### **議長／磯谷壮佑**

幡豆中学校、田中希梓議員の質問が終わりました。

次に、9 番目の質問者、鶴城中学校、山本 愛議員。

#### **9 番／鶴城中学校 山本 愛議員**

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「子育て支援について」です。

将来、私たちは子どもを産み、育てる立場になります。そのとき、子どもを産みたいと思える環境、子どもを安心して育てられる環境が今よりもっと充実してほしいと思えます。

昔に比べて給料が上がらない一方、進学率は上がり、今出産してから20歳までにかかる教育費と養育費は2,000万円から4,000万円と言われていています。経済的負担が少子化に与える影響はとても大きいと思えます。それだけの負担を払える自信がなければ、子どもは持てないと感じたり、子どもは1人で十分かなという心境になったりするのではないのでしょうか。実際、私には5つ年上の兄がいますが、既に兄の周りでもお金がかかるから結婚したくないという人もいます。ファミリー・サポート・センターの料金の補助のような支援を広く行うなど、税金を適切に使うことが大切だと思います。

そして、働き続けながら子育てをしたいという方の支援では、無償での長時間保育や日曜日でも預けられる場所、病児保育などの充実にも力を入れることが仕事と子育ての両立を可能にすると思えます。

そして、子ども1人を育てるのにかかる莫大な費用の軽減こそが、子どもを産むことへの躊躇を防ぎ、出産後も安心して育児ができる環境を整えることが少子化対策にもつながるのではないのでしょうか。医療費の無償化など経済面での支援と保育の充実にも力を入れてほしいと思えました。

そこで質問をします。

仕事と子育ての両立を可能にするために具体的にどんな対策を考えていますか。



### 子ども部長／榊原稔裕

西尾市では、安心して子どもを預けられる保育環境の充実、児童クラブの運営、ファミリー・サポートによる支援を進めております。

保育環境の充実では、特に近年ニーズが増加している3歳未満児の受入れに対応するため、保育所や認定こども園の整備を進めています。

児童クラブの運営では、仕事などにより昼間、保護者がいない家庭の小学校1年生から6年生までの児童に遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図っています。

ファミリー・サポート・センターでは、地域の中で子育ての手助けをしてほしい人と子育てのお手伝いができる人とが会員となり、小学生までのお子さんの一時預かりや保育園、学習塾への送迎などを会員相互の援助活動として行っております。

### 9番／鶴城中学校 山本 愛議員

ありがとうございました。

保育所や認定こども園について再質問します。

保育所や認定こども園の整備が進められているとのことですが、具体的にはどのような内容ですか。

### 子ども部長／ 榊原稔裕

保育所や認定こども園の整備につきましては、令和4年4月から古い建物の建て替えが終了した旧中野郷保育園、現在の名称がK I R A R A保育園、旧東部保育園、現在の名称がm i r a iと〜ぶこども園が開園をしました。令和5年4月には吉田保育園と離島保育園を統合して、新たに吉田みやこ認定こども園が開園する予定です。また、現在、福地南部保育園、矢田保育園、伊文保育園が建て替えに向けて事業を進めております。

### 9番／鶴城中学校 山本 愛議員

ありがとうございました。

既に認定こども園として開園されていたり、その予定のある建物の建て替えが進められていたりするなど、保育の充実はされつつあると分かりました。いろいろな場所に認定こども園が設備されれば、親の送迎の負担を減らすことにもつながると思いました。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

西尾市でも高校生までの医療費の無償化を取り入れてみませんか。また、小中学校の給食費の無償化は実施できませんか。

### 副市長／山口瑠美子

山本議員がおっしゃるとおり、子育て世帯を支援しまして子育てのしやすいまち、そういうまちにしていくことが本市としても、とても大事なことだと常に思っております。

そのために西尾市では、限られた予算の中においても子育てに対する経済的負担を軽減する独自の施策としまして、次世代を担う子どもの誕生を祝福する西尾すこやか祝い金、そういうものを支給したり、多額の費用を要する不妊治療、そういうものに対しても各種助成を行ったりする様々な施策を積極的に行っております。

高校生までの医療費の無償化ということになりますが、今年度の4月診療分から入院にかかる医療費を子ども医療の支給対象にしております。

また、通院医療費、そちらにつきましては、今年度の入院医療費の助成が年間約1,700万円必要ということに加えて、さらに約1億4,000万円が必要になる見込みですので、現時点では考えておりません。

次に給食ですが、子どもたちの身体の成長を支えるとともに食育の推進という点からも大きな価値を持っていると思っております。

西尾市では、給食を充実させるために昨年度から全額市の負担で月2回程度、皆さんも食べられたと思います。スペシャルメニューの日というものを設けて、地元ならではの食材を使ったメニューや皆さんが楽しみにしているデザートを提供するなど、質の高い給食を目指しております。

給食にかかる経費については、現在、調理員等の人件費や光熱費などは市が負担をしております。御負担いただいているものは、材料費分だけを給食費として保護者の方々にいただいているということになります。

また、生活困窮家庭の給食費は無償となっていることから、給食については今後も保護者に御負担をいただきますが、その分の経費を老朽化が深刻な学校施設の整備やより豊かで充実した子育て支援、そちらのほうに使っていきたいと思っております。

とりわけ学校施設については、今後、市内35校全校の大規模修繕や更新で多額の費用が必要になってまいります。厳しい財政状況の中、限られた税金を適切に使うという意味においては、安全安心で快適な教育環境の整備を進めることを優先したいと思っておりますので、皆さんが充実した学校生活を送られるようにこちらも努めてまいります。御理解くださいますようによろしくお願いいたします。

## 9番／鶴城中学校 山本 愛議員

ありがとうございました。

仕事と子育ての両立を可能にするために保育所や認定こども園の整備が進められていたり、限りある財源の中、今、最も必要とされる教育環境の整備が進められていたりするなど、関係するたくさんの部の方々が私たちのために動いてくださっていることに気づきました。ありがとうございます。

将来、私も西尾市で家庭を築きたいと思っております。そのとき、今よりさらに子育て支援において安心安全な環境が整えられていることを願います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## 議長／磯谷壮佑

鶴城中学校、山本 愛議員の質問が終わりました。

次に、10番目の質問者、西尾中学校、新家誠一議員。

## 10番／西尾中学校 新家誠一議員

まず初めにこれを見てください。皆さん、この商品を知っていますか。そうです。西尾の抹茶を配合したタオル、西尾の抹茶クレヨンです。西尾市観光協会に行き、買ってき

ました。また、そこで抹茶アイスも食べました。濃厚な抹茶の味が今でも忘れられません。まだ、この商品を持っていない方、抹茶アイスを食べられていない方はぜひお買い求めください。

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは、「僕たちの「西尾の抹茶」をより身近なものにするために」です。

5月16日、17日の2日間、僕たちは勤労体験として茶摘みを初めて行いました。茶摘みをするにあたり、自分で西尾の抹茶について調べてみました。すると、西尾の抹茶は特許庁の地域ブランドに認定されていることが分かり、驚きました。茶の分野で抹茶に限定した地域ブランドとしては、全国で初だそうです。その魅力のある抹茶のことを少しですが知ったことで、茶摘み体験はとても楽しく、2日間があっという間に過ぎました。

僕は、抹茶は西尾市のシンボルだと思っています。そこで、西尾の抹茶は全国でどのようにPRされているのか気になり、西尾茶協同組合の奥谷事務局長に電話をしました。すると、2015年にミラノ国際博覧会で抹茶を紹介したり、2019年にシンガポールでプロモーションをしたりし、世界でも紹介していることを教えていただきました。また、日本では、西尾の抹茶色クレヨンや、抹茶を配合した微かに抹茶の匂いのするタオルなどのグッズを販売をしていることも知りました。

しかし、全国的に見たときに、抹茶と言えば京都の宇治が生産量、知名度とともに1位だと思います。西尾市民として宇治のほうの方が有名であることは悔しいですが、考えてみると僕自身が西尾の抹茶についてよく分かっていないことに気がつきました。僕は、西尾の抹茶についてもっと知り、西尾市民としての誇りをもちたいと思いました。

そこで、次のことを提案します。毎年2月6日は抹茶の日ですので、それにちなんで、2月に西尾の抹茶週間を市に設定していただきます。例えば1週間、学校給食で抹茶や、てん茶を使用した料理を出したり、市内各所で抹茶の無料体験教室や無料販売所を行ったりします。これらの取り組みを行うことによって、西尾のシンボル抹茶により多くの地域の人に関わる機会になり、抹茶という地域産業を守りたいという思いが高まると思います。

「『あいちの茶』振興計画（第8次愛知県茶業振興計画）」の概要を読みましたが、最近、日本人のお茶離れが進んでいることが課題だと言われています。愛知県としては、学校などでお茶のおいしい入れ方を伝え、家庭でせん茶の飲用を促したり、水に溶けやすい抹茶などの商品を考えたりして、お茶を身近なものにしようとする取り組みが行われていることが分かりました。

そこで質問します。

西尾市では、抹茶を僕たち市民にとってより身近なものにするために、市としてどのような取り組みを行っているのですか、また行う予定なのですか。お聞かせください。

### **交流共創部長／内藤貴久**

まずは新家議員、冒頭に抹茶商品のPRありがとうございます。また、抹茶の海外プロモーションなどについてもいろいろ調べていただき、大変ありがとうございます。

新家議員の意見の中で2015年のミラノ国際博覧会のことがありましたが、実は私、そのミラノ万博に抹茶のPRをするために参加しておりました。ミラノ万博が食をテーマにする万博でありまして、サガミやココイチなど名古屋めしと一緒に参加したもので、海外

での抹茶の人気は大変なもので、抹茶イベントを開催する際は、毎回、満席の状態でありました。

それでは、交流協創部関係分についてお答えさせていただきます。

令和3年、市は西尾の抹茶おもてなし条例という市の法律を作りました。これは、抹茶のふるさと西尾を誇りに思うとともに、西尾の抹茶の普及を目指し、お客さんへの抹茶のふるまいを通しておもてなしの気持ちを高めましょうというもので、西尾市やお茶の関係者がすべきこと、市民の皆さんにお願いしたいことなどが定められています。

具体例としては、イベントで抹茶の呈茶サービスをしましょう、学校の教育現場では西尾の抹茶文化を継承しましょう、オリジナル商品を開発しましょう、SNSを使った情報発信をしましょう、お客さんに西尾の抹茶を出しましょうなどといったものです。これまでの抹茶の日のイベントやPRなど様々なことを行ってきましたが、改めて条例を作り、西尾市、お茶の関係者、市民の方たちに西尾の抹茶を再認識していただき、さらに積極的にやっていきたいと思いますというものであります。

平成4年に2月6日を抹茶の日と定めてから、西尾茶協同組合と協力して西尾の抹茶の日のイベントとして抹茶の無料呈茶サービス、工場見学ツアー、石臼ひき体験、抹茶アート体験などを実施してきました。今年は、明治5年に西野町地区にあります紅樹院の足立順道住職が京都の宇治から取り寄せた茶の種を境内にまいて150年という節目の年です。まさしく西尾の抹茶150周年の年となりますので、これまで以上に盛大にイベントが開催できればと考えております。

他にも抹茶に関するイベントとしましては、11月13日に愛知県県民茶会が行われます。前回開催したのは20年ほど前で、そのときは文化会館を中心に行ったものですが、今回は会場を文化会館や歴史公園のほかに、西尾小学校、一色町や吉良町でも行い、市内の方ももちろん、市外の方たちにも西尾の抹茶を味わっていただきたいと考えております。

また、新家議員のおっしゃった抹茶ウィークは非常に面白い提案だと思います。まちや通りを緑一色にしたり、いろいろな場所で抹茶を楽しめるようにするなど、市民の皆さんが日常生活の中に抹茶がある、抹茶をより身近に感じることができるといったことになるような様々な取り組みをしてみたいと考えております。

## **産業部長／加藤英之**

産業部関係分についてお答えします。

西尾市は抹茶の原料であるてん茶の栽培が盛んで、愛知県内で1位の生産量であります。この生産量を維持、向上させ、市民に身近なものとするためには、てん茶の生産者なくして西尾の抹茶は存在しませんので、先ほど交流協創部長が抹茶、抹茶と連呼しておりましたが、てん茶の生産者の支援を行うことが重要であります。支援策としまして、作業効率や品質の向上には機械や設備が必要ですので、国や愛知県の補助金の紹介やその手続をお手伝いします。

また、新家議員も知っていると思いますが、市内中学生を対象とした茶摘み体験学習は生産者団体が実施している取り組みで、80年以上も続く伝統行事であり、勤労体験と抹茶の原料であるてん茶に触れ合うことができる貴重な行事であり、身近に感じられる取り組みの一つでございます。

### 10番／西尾中学校 新家誠一議員

ありがとうございました。

西尾の抹茶をより身近なものにするために多くの人に関わって条例を作ったり、体験活動を行ったりしていることが分かりました。僕自身、西尾の抹茶についてあまり知識がありませんでしたが、今回の学生議会に参加させていただいたことで西尾の抹茶について知ることができ、西尾市民として誇りを持つことができました。今回学んだことを周りの仲間にも伝えていき、西尾市民としての誇りを持つ仲間を1人でも多く増やしていきたいと思えます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### 議長／磯谷壮佑

西尾中学校、新家誠一議員の質問が終わりました。

以上で本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして西尾市学生議会を閉会します。

### 総合政策部長／西尾隆治

皆様、ありがとうございました。また長時間にわたり、大変お疲れ様でございます。

それでは、ここで教育長から講評があります。よろしくお願いいたします。

### 教育長／稲垣 寿

10名の中学生議員の皆さん、ただいまは本当に心のこもった、堂々とした質問をありがとうございました。回答させていただいた市側の私たちも、それから傍聴席で聞いてくださる皆さんもとっても心に響いたと思えます。

皆さんは、各中学校の代表としてしっかりと勤めを果たされたと思えます。そして、この本物の議場で市長さんはじめ、西尾市の幹部の方たちに向かって自分の考えを発言することができて、皆さんは緊張も、もちろんあったと思えますが、今、充実感とか、ちょっと気持ちよかったなという爽快感とか、そういうものが得られたのではないかと思います。

さて、この議場ですが、市議会というところは西尾市民の皆さんが幸せに暮らしていくためにどうしていったらよいかということ話し合う場所です。そのためにどんなまちにしていくかとか、どんなイベントをやっていくかなどをこの場で協議します。

例えば、質問の中にも出てきましたが、津波避難タワーを作ったり、マラソン大会を開催したり、学校にエアコンを入れることを決めたのもこの場にあります。つまり皆さんのお父さんやお母さんたちが市に納められた税金をどんなことに使っていくかをここで決めています。市民の皆さんから集めたお金の使い道を決めているのですから、ここでの仕事は西尾市の未来を左右していくことになります。ですから、ものすごく重い責任を背負っているのです。この議場がこんなふうにとっても立派で、重厚で厳粛な雰囲気で作られているのは、そんな理由からであります。そして、市長や市議会議員が選挙で選ばれるのは、西尾市の未来を決める重大な仕事を任せられる、そういう信頼できる人を市民全員で選ぶ

ためであります。

本日、皆さんは各学校を代表する議員として一生懸命西尾市のことを考えて、質問や提案をしてくださいました。その思いに応えるために市側の回答も、中学生だからとか、そういう遠慮や子ども扱いは一切なく、手加減なしで全く本物の議会と同じように私たちはみんなの質問を検討し、回答させていただきました。ですから、皆さんが今、受け取った回答は加減なしの本物なのであります。

皆さんには今回の経験を基に、これからも様々な問題に気づき、それを解決するための方法を考える人になってほしいと思います。そして、未来の西尾市、未来の世界を担っていく人になってください。

結びに、10人の中学生議員の皆さんへの大きな期待と今後の活躍を願って、指導講評といたします。

皆さん、本日は誠に御苦勞様でした。

### **総合政策部長／西尾隆治**

最後に中村市長からお礼の御挨拶を申し上げます。

### **市長／中村 健**

10人の中学生議員の皆さん、どうもお疲れ様でした。

どの質問も非常に聞きごたえがあって、すばらしいものだったと思っています。先ほど教育長からのコメントにもありましたように、今回学生議会をやるにあたりまして、皆さんの真面目でひたむきな思いを僕たちも正面から受け止めて、変に子ども扱いはせずに本気で答えさせてもらいました。

皆さんのそれぞれのテーマに対して、少しずつ僕が一人一人コメントさせていただきたいと思います。

一番最初は吉良中学校の下城華保議員、「より魅力的な西尾市にするために」というテーマでありました。

情報発信の大切さというのは僕たちも気にしているところであり、情報発信をしていくにあたっては、どういうツールを使うとどういう人たちがその情報の受け手となるかという特徴をよく考えながら発信していくということが非常に大事だろうと思っています。これまでは市のホームページとか広報にしおがメインだったのですけれども、今はLINE公式アカウントという西尾市にとってとても大きな武器がありますので、それを有効活用しながら、これまで以上にしっかりと情報が届く発信をしていきたいと思っています。

それから、最近、感じ方は人それぞれなのかもしれませんが、市民の方からはテレビ番組などで西尾市が取り上げられる機会が増えて、非常に知名度が上がってきたと思いますという声も聞く機会が増えたので、そういったことも承知しておいてほしいと思います。ありがとうございました。

2番目が東部中学校の磯谷壮佑議員、「笑顔溢れる西尾市へ～ワクワク給食プロジェクト～」ということで、このワクワク給食プロジェクトは、僕個人も結構思い入れがあって、大人になっても子どものときの給食が忘れられなくて、食べたいのだけれどもなかなか食べられる店がないという経験があり、だから西尾市では名物の給食を市内の飲食店で

食べられるようにしたいということを思っています。

やりとりの中にもあったのですけれども、給食というのは世代を超えて市民が一つになって盛り上がる話題だと思っておりますので、今回質問の中でいただいた提案なども参考にしながら、これまで以上に西尾市独自のワクワク給食プロジェクトという取り組みを広めていきたいと思っています。ありがとうございました。

3番目が佐久島しおさい学校の石川果楓議員、「地域の未来を守るために」ということで、市民の命とか財産を守るということは、僕たち行政の人間のとても基本的で重要な役割だと思っていて、特に防災の分野にはこれまでもそうですし、これからも重点的に取り組んでいきたいと思っています。

ただ、石川議員も発言していたとおり、行政、市役所の人だけで全て責任もって全部賄えるかと言うと、やはりそれは難しく、この防災の分野については一人一人が他人任せにしないということが一番大事だと思っています。ですので、市の職員、行政は行政でやれることは全力でやりますので、石川さん始め市民の皆さんも、まずは自分の身は自分で守るという意識を持ってもらうのと同時に、町内会とかの公助で、もし大きな災害が起こったときに、どうしていくのだということを日頃からみんながよく話し合っておいてほしいと思いますので、よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

4番目は平坂中学校の林ひより議員、「場所の有効活用とリメイク」というテーマがありました。

使っていない土地や建物を有効活用していくという視点は、実はまちづくりにおいてすごく大事な視点ですけれども、ただ西尾市として十分にできているかと言うと、まだ十分にできていなくて、これから柔軟な考え方を持って、こういったことに取り組んでいく必要があるだろうと思っています。

それから、有効活用していくために何が大事かと言いますと、やはり市役所の人間だけが頑張るのではなく、民間の仕事をやっている企業の人たちが西尾市のためにお金を使って投資をしたいと思ってもらえるようにするためにはどうすればいいかということが一番大事だと思うので、そういう企業の皆さんが西尾市に投資をしたくなるような環境を、例えば規制を緩和して緩めていくとか、そういったところをしっかりと西尾市として取り組んでいきたいと思っています。どうもありがとうございました。

5番目が一色中学校の織田俊太郎議員、「安心安全で未来につながる一色町」ということであります。

いくつかテーマを取り上げてもらったのですけれども、最後の雇用のところで少しコメントさせてもらおうと、雇用の場を作っていくということは、西尾市がこれからも繁栄していくため、発展していくためには必要不可欠なことだと思っています。ただ、雇用の難しさというのは、行政とか市民の思いだけでやたら雇用の場を作れるわけではなく、やはり雇用の受け皿となる企業が何を求めているかというところを考えないとなかなか実現できないということが非常に難しいところだと思っています。

西尾市にとってどういうふうにやっていくのかということについては、答弁の中でもお答えさせてもらったのですけれども、なかなか一色町という範囲だけで考えると正直難しい部分もあると思うので、もう少し生活圏を広い範囲で考えて、西尾市全体の中で農業とか漁業が適した場所がどこかとか、製造業が適した場所はどこかとか、そういう適材適

所を考えながら雇用の場を作っていきたいと思いますので、一色町のよいところは生かしながらそういった雇用の場が作れるように引き続き取り組んでいきたいと思います。どうもありがとうございました。

6番目は福地中学校の石川紗希議員、「地域と学校のつながりづくり」ということで、地域と学校をつなぐものとして広報にしておに注目する中で、広報の配付回数を月に1回がいいのか、2回がいいのかとかを考えることで終わってしまうのではなく、配付回数が減った理由も理解した上で自作のチラシをポストに自分たちで入れようとか、自分たちに何ができるだろうというところまで考えられたところが僕はすごいなと思いました。ぜひとも自分に何ができるのかというところはこれからも大事にしてほしいと思いますし、あと僕たちも、広報にしておは多くの人から楽しんでもらっているんだとか、期待してもらっているんだということが今回よく分かりましたので、これからも期待に応えられる広報にしておをしっかり充実させて作っていきたいと思います。どうもありがとうございました。

続いて7番目が寺津中学校の鈴木彩楽議員、「寺津を第2の小京都に」というテーマでありました。

寺津地区というのは、答弁の中にもあったのですがけれども大河内松平家の出身地であります。そういうすごい歴史ある寺津地区で自分が生まれたんだということを、鈴木さんにはそういうことを誇らしく思えるような人になってほしいと思います。

今回、寺津の観光地として売り込んでいくためにいろいろな提案してくれたと思います。公共交通機関をどうするだとか、マップをどう作ったらいいのではないかと、そういったことはもちろん大事だと思うので、市としても一つの方法としてそれは考えていきたいと思うのですがけれども、特に皆さんの年代だとデジタルに抵抗がない年代だと思います。今、デジタルの技術というのがとても進んできて、デジタルの力によって、これまで実現できなかったことが実現できるということがたくさん出てきています。ですので、観光についても今あるものをどう使い勝手をよくしていくかだけでなく、今まで全然やっていなかったけど、デジタルの力を使うと実は寺津地区はもっともっと全国にPRできるのではないかと、そういう観点でも考えていくともっとワクワクするようなアイデアが浮かんでくると思うので、そういう視点でもまた自分の寺津地区のことを考えてほしいと思います。どうもありがとうございました。

続いて8番目が幡豆中学校の田中希梓議員、「安全で快適に過ごせる街」ということです。

防災については何人か取り上げてもらったのですがけれども、他人任せにしないということが大事だということはさっき言ったのですがけれども、もう一つ大事なこととして、想像力を働かせるということが僕はすごく大事だと思います。実際に大きな災害にあったときに自分たちがどうなってしまうのだろうというのは、実際に経験しないと分からないこともあるのだけれど、経験しない中でいかに想像力を働かせるかということが、いざというときに何が備えとしてできるのだろうということを考えるときに大事になると思います。

今回、避難所のことについて質問してくれたのも、そういう想像力を働かせながら避難所が気になったんだろうと思って、僕はそういった質問がすごくうれしかったと思います。防災については、これをやれば絶対に何があっても100%大丈夫ということは



なかなかないのですけれども、いつも改善していく気持ちを持ちながらこれからも、自宅とか地域で、もし大きな地震とか大雨とかが来たときにどういう備えができるのだろうかということをこれからも考えていってほしいと思います。

僕たちも行政として、さっきも言いましたけれども市民の生命と財産を守るのは非常に大事な仕事なので、これからも力を入れて取り組んできたいと思います。ありがとうございました。

次は9番目、鶴城中学校の山本 愛議員、「子育て支援について」ということです。

少子化対策というのは、今、日本が抱えている一番大きな問題だろうと思います。

一つは、提案してくれたように経済的な負担をどう減らしていくかということだと思います。どこの部分の経済的負担を減らしていくかというのは、人それぞれ考え方があるのですけれども、基本的にはあまりお金をかけなくても子育てができるような社会にしていくということが一つ大事だと思いますし、西尾市としてもその方向性は同じように思っているのです、引き続きそういったことにも取り組んでいきたいと思っています。

ただ、少子化の問題は経済的なことだけでは多分クリアできなくて、僕たちのこれまでの生き方と考え方というものを大きく変えていかなければいけないのだろうと僕は思っています。例えば、年代によっても考え方が違うのですけれども、家事の負担が、家庭でいうお母さんというか女性に偏っていたりだとか、あとは仕事を取るのか家庭を取るのかみたいな、どちらかを犠牲にしなければなかなか人生を歩んでいけないみたいな社会になってしまうと、きっと子どももたくさん産みたいとか、産もうという人は増えないと思うので、そういう家庭を大切にしながら仕事も大切にして人生を歩んでいけるとか、女性だけが子育てを頑張るのではなく、男性もしっかり協力というか、2人で一緒に頑張ってやっていくとか、そういう社会を作っていくということが一番大事であって、それはやっぱり政治の責任だと思っていますので、西尾市としても取り組んでいきますけれども、ここは国を挙げて取り組んでいけるように僕もいろいろな人たちに働きかけをしていきたいと、そのように思っています。どうもありがとうございました。

最後、10番目が西尾中学校の新家誠一議員、「僕たちの「西尾の抹茶」をより身近なものにするために」ということで、意見でも発表してくれたように西尾市のシンボルは抹茶だよねと思っている人はやはり多いと思います。10年前、20年前ぐらいに比べると、例えばスーパーとかコンビニの商品で抹茶を使ったものを見てもらうと西尾の抹茶を使用とか、西尾産抹茶を使用というものが実はすごく増えています。僕は市内で自分で買い物をするときもそうだし、東京とか大阪に行ったときもそうですけれども、抹茶の商品があると西尾の抹茶を使っていないかなと結構調べるようにしています。確実に西尾の抹茶と表示されているものが増えているように思うので、新家議員も今、西尾の抹茶を好きな気持ちがあると思うので、これからもいろいろな場所で西尾の抹茶を使っているんじゃないかなということを気にしながら調べてもらうとありがたいと思います。

今回、抹茶週間という面白い提案をいただきました。これ、結構やれるのではないかなと思っているので、参考にしながら、これまで以上に多くの人たちに西尾の抹茶のよさを知ってもらえるPR活動をしていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

今回、10人の中学生議員の皆さんから非常に前向きな意見とか質問をいただきました。これからの西尾市を住みよくするというか、よりよい西尾市にしていくために誰がその役

割を担うのかと言うと、確かに僕は市長として責任は重いと思っていますけれども、市長だけがやるとか、市役所の職員だけがやるとかではなく、やはり市民一人一人がいかに西尾市のことに関心を持って、西尾市のために立ち上がって行動しようと思えるかだと僕は思っています。だから市政の主役というか、まちづくりの主役は、やっぱり市民だと思います。

西尾市のために何ができるのかというときに、政治家になるとか公務員になるという、そういう方法もあるのですが、それだけでなく、ボランティア活動に参加するとか、自分で何かイベントを企画してみるとか、実は西尾市のためにやれることはすごくたくさんあって、それは皆さんが自分たちの生活の周りで何ができるのかということを考えてもらえればまず第一歩を踏み出せるのではないかと思います。今回のいろいろな提案とか意見は、すごく僕は参考にさせてもらえたと思って、ありがたく思っています。

これからも今の中学議員の皆さんがどういう人生を歩んでいかれるかは人それぞれだと思いますけれども、皆さんのこれからの人生の中でまた西尾市のために知恵とか力を貸していただきたいと思いますので、これからも一緒に力を合わせてワクワクする西尾市を作っていきたいと思います。よろしくお願いします。

どうもありがとうございました。以上です。

#### **総合政策部長／西尾隆治**

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして学生議会を終了したいと思います、長いことお疲れさまでした。気をつけてお帰りください。

閉会